

複合施設内の店舗となるスペースに設置された事務所。手前のミーティングスペースでは、くつろいだ雰囲気でも打ち合わせができる。

GENBA INNOVATION

現場イノベーション

創意工夫に富む現場の取組みやマネジメントの最前線を追う!!

「働きやすさ」を徹底追求! 「気分転換」とコミュニケーションで 現場の新しい形を提案 武蔵小山駅前通り地区第一種市街地 再開発事業施設建築物新築工事

工事概要	
工事名	武蔵小山駅前通り地区 第一種市街地再開発事業
工事場所	東京都品川区小山三丁目地内
発注者	武蔵小山駅前通り地区 市街地再開発組合
設計監理	株式会社アールアイエー東京支社
施工	五洋建設株式会社
工期	2018年3月31日～2021年6月15日
延床面積	53,676.48㎡
構造	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
建物規模	地上41階、地下2階



北西上空から施工中の現場を見る。(提供:五洋建設様)

あれをやめたかったんです」
座席を担当ごに集めてしま
と、自分の領域の仕事しかやらない
人が増え、他の担当との対話が生ま
れない。この事務所のような配置で
あれば、自分の仕事に打ち込みたい
時は壁に向かって集中できる一方、
話したいこと、確認したいことがあ
ればすぐ隣や背中合わせに座ってい
る同僚と気軽にコミュニケーションを
取れる。お互いのPC画面が見やす
いというメリットもある。

「好評なのは、このベンチシート付
のミーティングスペース。リラックス
した打ち合わせにも使えるし、ベンチ
シートで仮眠も取れる。シートの中
にはパーティーグッズが入っていて、こ
こで鍋を囲むこともできます」
その他、立ったままミーティングで
きるコーナーや、来所した外部スタ
ッフが靴を履いたまま打ち合わせで
きる土間スペースなど、コミュニケー
ションに特化した風通しのよい事務
所を作り上げた。

建設中のマンション内に設えられ
た事務所。足を踏み入れた途端、室
内の明るさが目についた。事務用の
机・椅子や応接セットはカジュアル
なものでまとめてあり、木目調が空
気を和らげる。パーティションが低
く、外光が差し込み、軽快なBGM
が流れる親しみやすい雰囲気は、従
来の現場事務所とは趣が大きく異
なる。五洋建設(株)東京建築支店・武
蔵小山建築工事事務所の生島幸治
総括所長にお話を伺った。



五洋建設株式会社
東京建築支店 副支店長
武蔵小山建築工事事務所 総括所長

生島 幸治 Kouji Ikushima

「この現場を立ち上げるときに、
本社の技術部から「事務所のデザ
インやレイアウトから働き方改革
を進められないか」と提案されたの
がきっかけです。私自身も以前から
やってみたくがあったので、これ
を機にいろいろ導入しました」
まずは、事務所内の職員の座席
の配置に一工夫。各席は壁に沿って
並べてあり、一見するとバラバラな
方向を向いて仕事をしているようだ
が…。

「テーマは「コミュニケーションの取
りやすさ」です。よくある「高層棟」
『中層棟』『工務』のような担当ごと
に島を作って分けるレイアウト…。

「建設業、モノづくりの魅力」を若い世代にいかにか伝えるか。
担い手不足解消に向けて課題は多いが、
まず働く環境の整備が先決という考えもある。
今回は、超高層マンションの現場で、
「事務所改革」に取り組んでいる事例取材した。

「明るく開放的な事務所
レイアウトの工夫で
対話を生む」

「事務所改革」に取り組んでいる事例取材した。

地上23階でのスラブコンクリート
打設。躯体工事は折り返し地点を
過ぎたところで、まだ先は長い。
(2020年2月中旬時点)



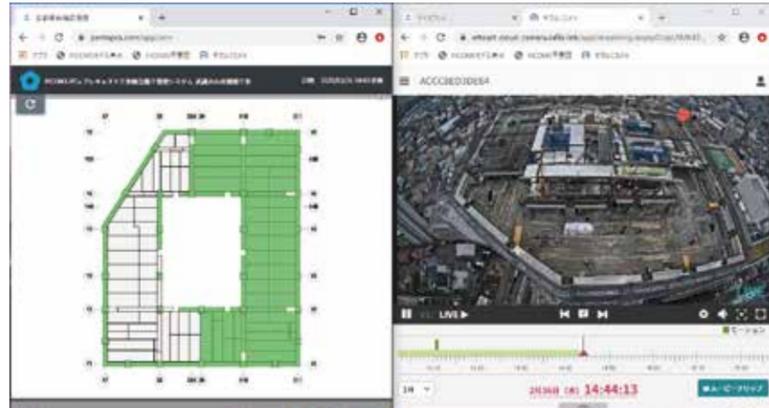
事務所職員が働くワークスペース。
壁に向かいつつ、横や後ろの席に
声をかけやすいレイアウトとなっている。



わざわざ靴を脱がなくてもそのまま
打ち合わせできる土間スペース。これ
もコミュニケーションのための配慮だ。



タワークレーンのクライミング準備中。駅前再開発のため敷地面積が狭く、気を遣う点も多い。



「PiCOMS」の画面。製造から取付までの進捗を管理できるだけでなく、BIMの専門知識や専用機器がなくても関係者全員で情報を共有できるという特長を持つ。(提供:五洋建設株)

「PiCOMS」は「五洋建設統合施工管理システム」のことで、BIMモデルを活用して建築工事を統括管理するために同社で開発された最新システムである。データにはスマートフォンなどからQRコードで簡単にアクセス可能。専用のハード・ソフトは必要なく、BIMに詳しくない人でも扱える。この現場ではプレキャスト工事に適用しているが、今後は鉄骨など他の工種にも展開していく予定だ。

他には、飲料の自販機にデジタルサイネージで工程表や組織図を表示する、朝礼会場のモニターをLED方式にして見やすくするなど、情報の視覚的な共有にも力を入れ



① 気分転換コーナー。には、卓球台やビリヤード台、ダーツなどが設置され、休憩中や仕事終わりに職人たちが交流を深める姿も。(現在は一時的に休止中)
② 飲料の自販機に組み込まれたデジタルサイネージ。工事概要や工程表を見ることができる。
③ 仮設事務所側面の「ボルダリングウォール」。安全帯をかけるロープも完備されている。

楽しく、働きやすい職場へ “気分転換”が現場を変える

コミュニケーションが 現場運営を円滑にする

この現場では、東急目黒線の武蔵小山駅の駅前再開発事業として地下二階・地上四一階建ての複合施設(集合住宅・店舗・事務所・公益施設)を施工しており、取材時点で二階の床までが完了。まさに佳境に差し掛かっているところだ。

生島所長の試みは、事務所のみならず施工現場でも取り入れられた。「現場の方のテーマは『気分転換』。仕事も大事ですが、職人さんに『楽しい職場だな』と思ってもらいたくて、考えたものです」

まず目を引くのは、仮設事務所の壁に作られた「ボルダリングウォール」。高さ約七メートルの本格的なもので、東京二〇二〇五輪の新種目に現場内で挑戦できる。すでに若い職人が物珍しさにチャレンジしたとのこと。

そして地下二階の休憩所の隣には、卓球台やビリヤード台等が置かれていて、誰でも利用することができる。取材時も、休憩中の職人たちが息抜きに使っている姿が見受けられた。

「休憩中や仕事終わりに、ちょっと一緒に息抜きをするだけで、お互いの距離が近づくといいですね」

“気分転換コーナー”は今後更に充実させていく予定だという。

遊び心を刺激してコミュニケーションを促す一方で、むろん施工の効率化に関しても様々な施策を行っている。

「プレキャスト工事の施工管理に、『PiCOMS(ピーコムス)』が活躍しています。これはプレキャスト部材の工場製作状況と現場の進捗状況を工事関係者間でリアルタイムで確認できるもので、この現場で初めて運用しています」

ている。

「今後は、高層階の現場が地上から離れていくので、よりスムーズな連携が求められます。上階と事務

所でテレビ会議のようなやりとりができたり、地下と上階で同時に朝礼を実施したりできるような手法を構築していきたいですね」

Webサイト「WorkStyle Lab」で動く現場を見よう!!

建設業界の働き方改革を伝えるサイト「WorkStyle Lab」では、「現場イノベーション」と連動したコンテンツを随時掲載中です。取材先の更に詳しい取組みやこぼれ話など、誌面に載せきれなかった内容を動画などで紹介します。所長さんや副所長さんなどの想いを生の声で、また実際の工事現場の様子を臨場感あふれる動画でぜひご覧ください。

たくさんのアクセスをお待ちしています。



WorkStyle Lab
<https://www.nikkenren.com/2days/workstylelab/>